

命を守る行動をしよう

道道路エンジニアリング

小学校訪れ4年生防災授業

北海道道路エンジニアリング(株)札幌、倉西秀夫社長は6日、札幌市立西小振東部地震発生から2ヵ月学校で「いのちをまもろう」が経ったこの日、児童は災害時に自分や家族など、一人でも多くの命を守るための避難方法等について考えた。



模型を使い液状化の仕組みを学んだ

んが講師を担当。4年3組と4組の児童計69人が受講した。

佐藤技師長は、津波の恐ろしさや西小学校における災害時の避難経路について説明したあと、9月6日に発生した北海道胆振東部地震の被災状況を写真や映像で紹介した。

また、札幌市清田区で発生した液状化現象の仕組みについて模型を使って説明。水槽の中に水を染み込ませた砂を入れ、砂の上にはマンションなどの模型を置き、水槽に衝撃を与え、強い地震の揺れを再現させて液状化を発生させた。児童は、振動により砂の表面に水が浮き出し、模型が次々

と倒れていく現象に驚きを隠せない様子だった。

液状化の仕組みを理解したあと、グループごとに液状化を防ぐ方法について考え、「建物の下をコンクリートで固めてみては」「山を平らにし、水を抜いてみる」と安全ではないか」とそれぞれ考えを発表した。

佐藤技師長は「9月に起きた地震のように、災害は身近にあるもの。自分の考えや行動が命を守ることにつながることを理解してもらい、考える力を身に付けてほしい」と話していた。

なお、5日にも他クラスで同様の授業を行った。